

氏神様は、古くは同じ一族の氏族がおまつりしていた神さまをいいましたが、後に主として地域の守り神・鎮守さまを意味するようになりました。こうしたことから、一族や個人がおまつりする氏神様は、屋敷内に移されるようになり、屋敷神様とも呼ばれるようになります。

この氏神（屋敷神）の祭りを氏神祭といひ十一月十五日に行ないます。祭りは、その年に葦や刈り上げの刈り違いの葦で葦奉殿を作り、新しい土をもって宮を作ります。葦奉殿には二種類があり、地域によって違いがみられます。新しい葦奉殿を作ることは、大神宮が二十年毎に式年祭を行なうのと同じ意味をもちますが、近年は木造や石造の宮が多くなり葦奉殿はみられなくなりつつあります。葦奉殿の四方には注連縄をはり、新



地域によって形が違う葦奉殿

うじがみ 氏神様

屋敷内で家内安全・五穀豊穡を祈願

11月15日



ふるさとの年中行事

文芸ひろば

俳句

霧晴れて落葉松林続きけり
木の実落つ音の清しき朝かな
引く波に秋を聞きたり五浦浜
秋気澄む仰ぎし杉の一直線
彩りと香りに塗れ菊花展
好きな道八十路の歩幅で落葉踏む
時止まる廃屋にぼつと秋のバラ
一年に育む愛の菊花展

桜井筑蛙（中志筑）
矢口三郎（稲吉東）
枝力（稲吉）
松村久子（稲吉東）
石塚文子（牛渡下郷）
折本アイ子（鹿ノ山）
萩原とし子（南根本）
松沢よ志の（深谷二）

短歌

地の恵みに育まれつつ実となりし名前は愛らし雪姫南瓜
黄金色に育ちし稲田に風立ちて穂波大きくうねりやまざり
地をもたぐ竹の走り根に躓けり若竹剪りし我への科か
いくとせを地中に住みて育ちしや今日立秋に法師蟬なく
個性しむる歌詠みたしと思へども浮び来ぬまま風は過ぎゆく
国旗を振る怒号の群衆よけながら行きし新京白菊小学校に
孫達にせめて残そう優しさをいつしか吾れを想い出す時
事故死せる友は買い物上手なりき綿毛布しかりカーテンベルトも
緑濃くひしめく葉群抜き出でて蓮の蕾は光に寛ぐ

橋本とし栗田
畑百合子（上佐谷）
的場トシ子（上土田）
宮本和子（中佐谷）
小室貞江（西成井）
佐藤千代（穴倉）
名倉靚子（下大堤）
前島和子（雪入）
前嶋武（上土田）

教育委員会

学校だより

本校教育目標

郷土を愛し、心豊かに、たくましく生きる生徒を育てる

たとえばこんな生徒

自ら学ぶ生徒（知）
・多様な見方や考え方で適切に物事を判断できる力

思いやりのある生徒（徳）
・相手の立場や気持ちを考えて行動し、共により良く生きていくことができる力

たくましい生徒（体）
・困難に負けず心身共に健康で明るく生活することができる力

「心豊かな生徒」に育つために…

生徒主体の活力ある学校行事…
それが文化祭！



学習発表会

国語の弁論、選択家庭科のフアツシヨンショーなど授業で学んだことから、夏休みに行われた「少年のつばさ」参加者のオーストラリア研修の報告会まで、幅広く学びの成果を発表しました。壁には一面に絵画が展示され、美術館さながらの光景でした。



合唱コンクール

午後の合唱コンクールは、文化祭最大の企画とも言えるでしょう。学年ごとの課題曲に加え、練習を重ねるうちに学級ごとの特色が色濃く反映される自由曲の二曲を歌いました。一カ月にも及ぶ早朝・放課後練習の中には、意見の食い違いによる衝突もあったことでしょう。でも誰もがよい結果を残したいという思いで団結し、本番はどの学級も素晴らしい歌声を披露しました。



文化祭三大企画

文化的活動発表会

午前中二つ目の企画は、部活動やそれぞれの特技を披露する「文化的活動」を発表する場になりました。郷土科学部はシャープペンシルの芯を発光させる実験を、吹奏楽部はルパン三世やスターウォーズなどの名曲を披露。そして有志による発表は、バンドによる歌やダンス、部活動をテーマにした演劇から先生も加わったコントに至るまで、計九組の団体が発表しました。この日のために一カ月以上も前から練習を積み重ね、観客の誰もがその努力を知っていただけに会場は大盛り上がりでした。

